

[D年]復活節第2主日(2024年4月7日)**【旧約聖書日課】出エジプト記 15章1～11節**

¹モーセとイスラエルの民は主を賛美してこの歌をうたった。

主に向かってわたしは歌おう。

主は大なる威光を現し

馬と乗り手を海に投げ込まれた。

²主はわたしの力、わたしの歌

主はわたしの救いとなってくださった。

この方こそわたしの神。

わたしは彼をたたえる。

わたしの父の神、わたしは彼をあがめる。

³主こそいくさびと、その名は主。

⁴主はファラオの戦車と軍勢を海に投げ込み
えり抜き、戦士は葦の海に沈んだ。

⁵深淵が彼らを覆い

彼らは深い底に石のように沈んだ。

⁶主よ、あなたの右の手は力によって輝く。

主よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。

⁷あなたは大なる威光をもって敵を滅ぼし

怒りを放って、彼らをわらのように焼き尽くす。

⁸憤りの風によって、水はせき止められ

流れはあたかも壁のように立ち上がり

大水は海の中で固まった。

⁹敵は言った。

「彼らの後を追い

捕らえて分捕り品を分けよう。

剣を抜いて、ほしいままに奪い取ろう。」

¹⁰あなたが息を吹きかけると

海は彼らを覆い

彼らは恐るべき水の中に鉛のように沈んだ。

¹¹主よ、神々の中に

あなたのような方が誰かあるでしょうか。

誰か、あなたのように聖において輝き

ほむべき御業によって畏れられ

くすしき御業を行う方がいるでしょうか。

【使徒書日課】ペトロの手紙一 1章3～9節

³わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリストの復活によって、生き生きとした希望を与え、⁴また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、しぼまない財産を受け継ぐ者としてくださいました。

⁵あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。⁶それゆえ、あなたがたは、心から喜んでいるのです。今しばらくの

間、いろいろな試練に悩まねばならないかもしれませんが、⁷あなたがたの信仰は、その試練によって本物と証明され、火で精練されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊くて、イエス・キリストが現れるときには、称賛と光栄と誉れとをもたらすのです。⁸あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせないすばらしい喜びに満ちあふれています。⁹それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。

【福音書日課】ヨハネによる福音書 20章19～31節

¹⁹その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。²⁰そう言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。²¹イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」²²そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。²³だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

²⁴十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。²⁵そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うので、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」²⁶さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。²⁷それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」²⁸トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。²⁹イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

³⁰このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。³¹これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

『聖書協会共同訳』（2018年版）読み比べ

出エジプト記 15章1～11節

¹その時、モーセとイスラエルの人々はこの歌を主に歌った。

「主に向かって私は歌おう。

なんと偉大で、高くあられる方。

主は馬と乗り手を海に投げ込まれた。

²主は私の力、私の盾。

私の救いとなられた。

この方こそ私の神。私はこの方をほめたたえる。

私の父の神。私はこの方を崇める。

³主は戦人。その名は主。

⁴ファラオの戦車と軍勢を海に投げ込まれ
えり抜き補佐官は葦の海に沈んだ。

⁵深淵が彼らを覆い

彼らは石のように深みに落ちていった。

⁶主よ、あなたの右の手は力に輝く。

主よ、あなたの右の手は敵を打ち砕く。

⁷大いなる威光によって敵を破り

怒りを放って、わらのように焼き尽くす。

⁸怒りの風で水はせき止められ

流れは水の壁のように立ち

深淵は海の中で固まる。

⁹敵は言った。

『追いかけて、追いつき、戦利品を分け

思いのままに剣を抜き、この手で奪おう。』

¹⁰あなたが息を吹きかけると

海は彼らを呑み込み

彼らは荒れ狂う海に鉛のように沈んだ。

¹¹主よ、神々のうちで

誰かあなたのような方がいるでしょうか。

誰が、あなたのように聖であって栄光に輝き

賛美されつつ畏れられ

奇しき御業を行うのでしょうか。

ペトロの手紙一 1章3～9節

³私たちの主イエス・キリストの父なる神が、ほめたたえられますように。神は、豊かな憐れみにより、死者の中からのイエス・キリストの復活を通して、私たちを新たに生まれさせ、生ける希望を与えてくださいました。⁴また、あなたがたのために天に蓄えられている、朽ちず、汚れず、消えることのないものを受け継ぐ者としてくださいました。⁵あなたがたは、終わりの時に現されるように準備されている救いを受けるために、神の力により、信仰によって守られています。⁶それゆえ、

あなたがたは大いに喜んでいきます。今しばらくの間、さまざまな試練に悩まねばならないかもしれませんが、⁷あなたがたの信仰の試練は、火で精錬されながらも朽ちるほかない金よりはるかに尊く、イエス・キリストが現れるときに、称賛と栄光と誉れとをもたらすのです。⁸あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛しており、今見てはいないのに信じており、言葉に尽くせないすばらしい喜びに溢れています。⁹それは、あなたがたが信仰の目標である魂の救いを得ているからです。

ヨハネによる福音書 20章19～31節

¹⁹その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸にはみな鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。²⁰そう言って、手と脇腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。²¹イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父が私をお遣わしになったように、私もあなたがたを遣わす。」²²そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。²³誰の罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。誰の罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

²⁴十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。²⁵そこで、ほかの弟子たちが、「私たちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の痕を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をその脇腹に入れなければ、私は決して信じない。」²⁶さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。²⁷それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。あなたの手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」²⁸トマスは答えて、「私の主、私の神よ」と言った。²⁹イエスはトマスに言われた。「私を見たから信じたのか。見ないで信じる人は、幸いである。」

³⁰このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。³¹これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名によって命を得るためである。

黙想のためのノート**次主日の教会暦と聖書日課**

・4月7日「復活節第2主日」の日課主題は「復活顕現(1)」。

・旧約聖書日課は、「出エジプト記」から、モーセとイスラエルの民が「渡海の出来事」の後に歌ったとされる「海の歌」の箇所。使徒書日課は、「ペトロの手紙一」から、冒頭の挨拶が述べられる箇所。福音書日課は、「ヨハネによる福音書」から、マグダラのマリアの報告を受けて集まっていた弟子たちのもとに二週続けて主イエスが復活して現れられたことを伝える箇所。

旧約日課(出エジプト15章より)

・「出エジプト記」については、前週資料も参照。

・日課箇所は、「モーセ物語」の最初のクライマックスとも言える「渡海の出来事」を踏まえた讃歌(詩編)として置かれた章の前半部。この章(15章)は、1～19節と20～21節の二段構えになっているが、21節の讃歌は1節と対応しており、全体として一つの讃歌を構成していると考えられる。このような讃歌(詩編)は、ユダヤ正典(ヘブライ語聖書)「諸書」に区分される「詩編」全150編が知られているように、典礼歌として祭司集団によって古くから継承されてきたものと考えられている。「詩編」で標題や歌唱法の指示が付されているように、日課箇所の1節や20節も歌唱法の指示に相当すると考えられる。おそらく、21節の讃歌は、1～18節の讃歌が歌唱されるに際して、区切りごとに応答唱として歌われた、と考えられている。

・日課箇所を含む讃歌は、4部で構成されていると考えられている。すなわち、①2～5節、②6～10節、③11～16c節、④16d～18節で、1節や21節は各部分ごとに繰り返し付加されて歌われたと考えられる。13節以降で歌われる内容は、「渡海の出来事」よりも後の、カナン入植時代を背景にしたものと考えられ、この讃歌が実際に歌われるようになったのは、王国時代以降、周辺諸民族(部族)に対する支配権を主張するようになった時代であろうと考えられる。

・「旧約」中で、日課箇所のように説話物語に付随して讃歌/詩編が挿入される例は、他にも見られる。創世記には、「ヤコブの祝福」(創49章)と呼ばれる詩編が置かれている。「モーセ物語」全体の中では、終結部を構成する「申命記」の終わりに、「モーセの歌」(申32章)および「モーセの祝福」(申33章)と呼ばれる詩編が置かれている。「士師記」には、士師デボラの説話が続いて「デボラの歌」(士5章)と呼ばれる讃歌が置かれている。「サムエル記」には、冒頭に「ハンナの祈り」(サム上2章)と呼ばれる讃歌、中間部に「哀悼の歌・弓」(サム下1章)と呼ばれる詩編、終結部に「ダビデの感謝の歌」(サム下22章)また「ダビデの最後の言葉」(同23章)と呼ばれる讃歌が置かれているが、このうち「ダビデの感謝の歌」はほぼ「詩編」18編と同じものである。

使徒書日課(Ⅰペトロ1章)

・「ペトロの手紙一」は、新約正典「使徒書」の中で「公共書簡集」と呼ばれる一連の書簡文書の一つ。使徒ペトロの名でアナトリア各地の信者共同体に宛てて記されている。現代の新約学者の多くは、ギリシア語本文の文体や思想内容を踏まえて本書簡をペトロの手に拠らないものとみなす傾向にあるが、そもそも当時の書簡文書のほとんどは、差出人本人が口述筆記させたものであり、自ら執筆したものではない。書簡末尾には、これが「シルワノ」によって書かれたものであるとの注記があり(5:12)、また「マルコ」が同伴していることを示す記述もある(5:13)。「シルワノ」は、パウロの協力者として、また書簡の共同差出人としても知られる人物(Ⅰコリ1:19、Ⅰテサ1:1、Ⅱテサ1:1)。「マルコ」は、「使徒言行録」で「ヨハネ」とも呼ばれる人物(使徒12章、同15章)と考えられ、「パウロ書簡集」でも繰り返し言及されている(コロ4:10、Ⅱテモ4:11、フィレ24)。教会伝承では、マルコは通訳としてペトロの宣教活動を支え、ペトロの没後にその言説をまとめる目的で「福音書」(マルコ福音書)をまとめたとされている。この二人の人物が本書簡に深くかかわったであろうことが推認されるが、第三世代(主イエスのことも使徒たちのことも直接は知らない世代)以降の信者にとっては、彼らのような人物によって伝えられ、文書化されていった「使徒の教え」こそが、主イエスの教えや行跡を知る手だてに他ならなかった。

・日課箇所は、本書簡が主イエスを直接知らない信者に向けて記されていることを明示している(6節)。本書簡が宛名としている地域は、「使徒言行録」がシリア・アンティオキアの教会との関連で叙述している地域と重なっており、「使徒言行録」でバルナバ宣教団の働きとして描かれるような経緯で各地に教会共同体が形成されていたものと推察される。初期の教会共同体は、シリア・アンティオキアやローマなど拠点となっていた地では、祭りに際してエルサレムを訪れて同地の使徒たちの原始共同体に接した後に戻って来た者たちを萌芽として形成されたと考えられるが、「使徒言行録」が伝えるのは、そのような拠点教会から派遣された「バルナバ宣教団」のような働きにより、各地のユダヤ人会堂共同体への宣教が行われ、そこからキリスト者の教会共同体が生まれたと考えられる。そのような各地の教会共同体に属する信者は、当然、生前の主イエスを知らず、エルサレムの共同体のこともほとんど知らなかっただろう。本書簡は、そのような信者のキリストに関する認識を当然のこととして前提にしている。他方で、パウロ(パウロ書簡集)は、彼自身が生前の主イエスを直接知らなかった者として、かえって霊的なキリストとの出会いということについて考え、言及している。

・6節「試練(ペイラスモス)」は、福音書が主イエスの「荒野の誘惑」を描くときの「誘惑を受けられた(ペイラゾー)」という用語の名詞形。

福音書日課(ヨハネ 20 章より)

・日課箇所は、本福音書が伝える「復活顕現」の第二幕。「ヨハネ」は、「復活顕現」を三幕にわたって描き、それぞれを二場面で物語っている。ここで描かれるのは、「マグダラのマリア」が復活のイエスと出会った「週の初めの日の、朝早く」(20:1)から半日経った「週の初めの日の夕方」の出来事と、それから「八日の後」すなわち一週間後の「週の初めの日」の出来事。どちらも、「弟子たち」だけが集まっている状況を描いており、原初の「主日の集会」を示唆する設定となっている。弟子たちが復活の主イエスと会ったという「復活顕現」伝承は、「マタイ」では「ガリラヤ」の山の上での出来事として、「ルカ」では「エルサレム」または近郊の家または屋外での出来事として伝えている。「ヨハネ」の伝える日課箇所の「復活顕現」伝承は、「ルカ」との共通性が高いが、第三幕として描かれる伝承(21 章)は「マタイ」との共通性がうかがわれる。

・日課箇所の説話物語は、これ自体で独立した体裁を整えているが、「福音書」の展開上、前段で復活の主イエスと会った「マグダラのマリア」が弟子たちに「わたしは主を見ました」(20:18)と告げたことが前提となっている。ただし、それに先立って、「ペトロともう一人の弟子」がマリアの報告を聞いて空の墓を確認しに行っていたことも前提となっている(これらの展開は、「ルカ」と同様)。「ヨハネ」は、マリアの報告の言葉、「わたしは主を見ました」を、日課箇所では、弟子たちの言葉としてそのまま語らせている(25 節)。すなわち、マリアから弟子たちへ、弟子たちから他の弟子(トマス)へと、すでに復活の主イエスと出会った者が他の者に「わたし(たち)は主を見た」と告げることによって、まだ出会っていない者も出会うようになる、という「復活顕現」の連鎖反応を描こうとしている。

・25 節「見た」は「オラオー」、29 節の「わたしを見たから」の「見た」も「オラオー」、同節の「見ないのに信じる人」の「見る」は「エイデー」で、類義語であるが使い分けがされている。一般には、同義語として意味の違いはないと解釈されるが、辞書的には、「エイデー」はより意識的に見ることを意味すると説明される。

・29 節「わたしを見たから信じたのか」の直訳は「あなたはわたしを見たので、信じた」で、疑問形ではない。

来週の誕生日 (4 月 7 日～13 日)**主日礼拝の讃美歌から**

・21-333 番「主の復活、ハレルヤ」は、20 世紀後半のタンザニア・ルター派牧師キヤマニワがスワヒリ語で作詞しハヤ族の伝統的旋律を付して発表。原曲は結婚式における宗教儀式で歌われる舞踏歌。ルター派でドイツ語に訳され広く知られるようになった。

・21-329 番「目覚めよ、歌えよ」は、18 世紀英国のジャーナリスト・スマートの作詞。18 世紀英国の国教会司祭ホイスの原曲を音楽家サミュエル・ウェップ Jr が讃美歌用に整えた曲と組み合わせられている。

・21-72 番「まごころもて」(= I 202)は、中世の神学者トマス・アキナスの作とされるラテン語聖歌。

21-333「主の復活、ハレルヤ」**Mfurahini, haleluya****English Translation**

1. Christ has arisen, alleluia. / Rejoice and praise Him, alleluia. / For our Redeemer burst from the tomb, / Even from death, dispelling its gloom.
- Refrain: *Let us sing praise to Him with endless joy; / Death's fearful sting He has come to destroy. / Our sin forgiving, alleluia! / Jesus is living, alleluia!*
2. For three long days the grave did its worst / Until its strength by God was dispersed. / He who gives life did death undergo; / And in its conquest His might did show. / (Refrain)
3. The angel said to them, "Do not fear! / You look for Jesus who is not here. / See for yourselves the tomb is all bare; / Only the grave cloths are lying there." / (Refrain)
4. "Go spread the news: He's not in the grave; / He has arisen this world to save. / Jesus' redeeming labors are done; / Even the battle with sin is won." / (Refrain)
5. Christ has arisen; He sets us free; / Alleluia, to Him praises be. / Jesus is living! Let us all sing; / He reigns triumphant, heavenly King. / (Refrain)

21-329「目覚めよ、歌えよ」**Awake, arise, lift up your voice**

1. Awake, arise, lift up your voice, / let Easter music swell; / rejoice in Christ, again rejoice, / and on his praises dwell.
2. Oh, with what gladness and surprise / the saints their Saviour greet; / nor will they trust their ears and eyes / but by his hands and feet:
3. those hands of liberal love indeed / in infinite degree, / those feet still free to move and bleed / for millions and for me.
4. His enemies had sealed the stone / as Pilate gave them leave, / lest dead and friendless and alone / he should their skill deceive.
5. O Dead arise! O Friendless stand / by seraphim adored! / O Solitude again command / your host from heaven restored!

21-72「まごころもて」**Adore devote****English translation**

1. Godhead here in hiding, whom I do adore, / Masked by these bare shadows, shape and nothing more, / See, Lord, at your service low lies here a heart / Lost, all lost in wonder at the God you are.
2. Seeing, touching, tasting are in thee deceived: / How says trusty hearing? that shall be believed; / What God's Son has told me, take for truth I do; / Truth Himself speaks truly or there's nothing true.
3. On the cross your godhead made no sign to men, / Here your very manhood steals from human ken: / Both are my confession, both are my belief, / And I pray the prayer of the dying thief.
4. I am not like Thomas, wounds I cannot see, / But can plainly call you Lord and God as he; / Let me to a deeper faith daily nearer move, / Daily make me harder hope and dearer love.
5. You are our reminder of Christ crucified, / Living Bread, the life of us for whom he died, / Lend this life to me then: feed and feast my mind / With your sweetness that we all were meant to find.
6. Bring the tender tale true of the Pelican; / Bathe me, Jesu Lord, in what your bosom ran / Blood whereof a single drop has power to win / All the world forgiveness of its world of sin.
7. Jesu, whom I look at shrouded here below, / I beseech you send me what I thirst for so, / Some day to gaze on you face to face in light / And be blest for ever with your glory's sight. Amen.